

都市緑化フェア・老馬谷ガーデン 報告書

東京都市大学 環境学部 環境創生学科 2年
都市緑化研究会 部員 佐藤充人



● 本プロセスへの経緯

私がこのような素敵なプロジェクトに参加させていただいているのは、何より飯島教授をはじめとする、熱意ある仲間たちとの“出会い”にあります。私が一年だった初夏、「何か、熱中できる活動がしたい。」そんな話を持ち掛けた私に、飯島教授は植物によるストレス軽減の研究、最先端の軌道緑化や屋上緑化などの貴重な体験を設けてくれました。その果てとして、この都市緑化フェア・老馬谷ガーデンプロジェクトを提案して下さったのです。そして、それに呼応する形でガーデンの創造を希望する熱意ある学生たちが集結し、誕生したのが都市緑化研究会でした。

● 造園を通して学んだこと

私はこのガーデン創造から様々なことを学びましたが、ここではその中でも特に重要な二つを伝えたいと思います。一つ目は、現場の厳しさとそれに対する適応力です。私たち学生が作業を開始した時点での現場は、刈り取られた草木が張り巡らせていた多量の根やペットボトルといった小さなものからタイヤなどの大きなゴミ、絶え間なく続く水漏れなど数多くの課題があり、当時の現場の状況は非常に厳しかったです。そこで私は、ゼロからプラスにすることよりもマイナスからゼロに戻すことのほうが遥かに難しいのだと感じました。また、厳しい現場の中での飯島教授のこんな言葉も私の記憶にまだ新しく残っています。「自分の理想や本来の計画通りに事を進めるのではなく、現場に合わせてものを作ることが大切。」 私は貴重なフィールドワークから現場へ適応することの大切さを教えられました。

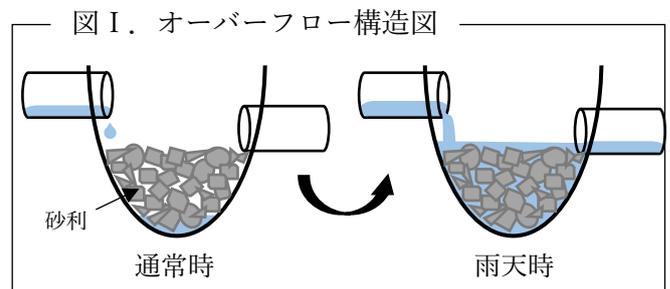


二つ目に学んだことは、皆でガーデンを造りあげる、即ち協力するということです。この“皆”とは研究会の仲間たちだけでなく、教授や専門家、NPO団体の方々、横浜市役所の方々、そして市民方と役割分担を行い、作業を協力し、老馬谷に関わる全ての人に皆のガーデン、皆の公園なんだという意識と責任感を持ってもらうこと大事であるということこそ、今回、私が最も重要だと思ったことです。

● オーバーフロー技術の活用

私を手掛けた作品は、オーバーフロー技術を用いた、漏水改善の排水路とそれらの上部に備えつけたミニ多肉植物エリアです。

オーバーフロー技術とは雨水の流出により上昇する液面の高さを想定して造られた別の配管に繋ぐことで、雨水を逃がし、水が溢れかえるのを防ぐ技術のことです。私はこの技術をパイプとパイプの関節部分に利用しました。下記に構造図を示しました。



そして、それらの上部にミニ多肉植物エリアを設けた理由としては、パイプやコンクリートといった人工物を隠すことが目的であるのと同時に、カモフラージュすることで排水路自体が一つの作品となるように心掛け創造しました。